

「一隅を照らす『あいさつ』の積み重ね」

2 5 0 4 2 1

前回の生徒会役員選挙の立会演説会でも多くの立候補者が「あいさつ」に触れていました。また、昨年度の修了式の私の話でも、現2・3年生のみなさんに春休みの宿題として「あいさつ」について考えるように伝えました。みなさんは、どんなあいさつを考えてきましたか。

私が宿題として考えてきた「あいさつ」は、まとめてではなく、一人一人にあいさつをするということです。朝の登校してくる生徒のみなさん一人一人に向かって、「おはようございます」と連続して言うことを心掛けています。信号が変わって一度に多くの人が通過していくと、「おはようございます」「おはようございます」「おはようございます」とうるさいくらいになってしまいましたが、一人一人に視線を向けてあいさつをすることを目指しています。それをこれからも続けていこうと思っています。

先日、正門前の信号のところで、朝の交通立ち番をしていた幸田町教育委員会の方が嬉しそうに私に話しかけてくれました。「実は今朝は、ちょっともやもやすることがあって、気分が晴れなかったんですよ。もやもやしたまま交通立ち番をしていたんですけど、登校してくる幸中生が次から次へと気持ちよくあいさつをしてくれてるうちに、気分がとっても良くなってきました。幸中生のお陰で、気持ちよく仕事に入れます。」と言ってくれました。あいさつ一つで人の心を動かすことができること、あいさつのもつ力の大きさを改めて感じました。個人の、一人のあいさつは、小さな力かもしれませんが、何人もの幸中生があいさつをし続けることで、人の心を動かすことがきたのです。まさに「**一隅を照らす**」あいさつをする人が集まり、大きな輝きとなったのです。「自分一人がやっても…」とは考えず、ぜひ「**一隅を照らす**」取組を続けていってほしいと思っています。

そして、生徒会や委員会の活動、クラスでの取組の中でも、幸中のあいさつのレベルアップを図るものを考えていってほしいと期待しています。

私も、私のあいさつをレベルアップさせていきます。